

# 令和5年度 第2回酒田市文化芸術推進審議会

◆日時：令和5年12月5日（火）午前10時～

◆会場：希望ホール 小ホール

## 1 開 会

## 2 市長あいさつ

## 3 審議会会長あいさつ

## 4 報 告

(1) 令和4年度文化芸術推進計画関連事業について 資料1

## 5 協 議

(1) 酒田市文化芸術推進計画改定について

① 評価指数の現状と令和9年度目標値（案）について 資料2

② 推進体制(案)について 資料3

## 6 その他

(1) 東京藝術大学との委託事業中間報告

## 7 閉 会

令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(一覧)

事業 NO	予算上の事業	事務事業	担当課	文化芸術推進計画基本的施策																				計		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20			
				行文化環境の整備	環境の整備	文化活動の充実	学校教育の充実	学校文化活動の充実	子どもの文化活動	文化材の育成	文化芸術の普及	市民による協働・開創	地域コミュニティの活性化	国際文化交流	専門性の高い配置	社会文化芸術による強	文化芸術の連携	文化芸術の活用	酒田らしい景観の創出	酒田らしい景観の創出	文化施設の活用	伝統的な食文化の発信	伝統的な食文化の発信		観光との連携	産業との連携
1	広報広聴活動推進事業		市長公室																						○	1
2	山居倉庫周辺整備事業		都市デザイン課													○	○									2
3	さかたらしい景観づくり事業		都市デザイン課													○	○									1
4	老人クラブ助成事業		高齢者支援課		○							○														2
5	食習慣改善事業		健康課																○							1
6	地域活動支援センター事業		福祉企画課		○							○	○	○												4
7	客船誘致事業		商工港湾課								○			○							○	○				4
8	国際交流推進事業		交流観光課								○				○	○										3
9	青少年国内外交流事業		交流観光課								○				○	○										3
10	「少年の翼」交流事業		交流観光課								○				○	○										3
11	中学生海外派遣事業「はばたき」		交流観光課								○				○	○										3
12	北前船寄港地交流推進事業		交流観光課													○					○					2
13	酒の酒田の酒まつり事業		交流観光課																	○	○	○				3
14	市民協働・公益活動推進事業		まちづくり推進課		○					○				○	○											4
15	コミュニティ振興事業		まちづくり推進課	○					○		○															3
16	さかた農産物販路・消費拡大事業		農政課																	○			○			2
17	水産業振興総務管理事業		農林水産課																	○			○			2
18	八幡地域振興事業	やわた文化祭、やわたクラシックコンサート等	八幡総合支所		○		○	○			○				○		○									6
19	地域振興事業(松山の宝推進事業)	まつやま大手門くらふとフェア等	松山総合支所	○							○						○		○							4
20	松山地域振興事業	松山芸術祭、眺海の森音楽祭、郷土史講演会、伝統文化体験等	松山総合支所		○						○				○		○									4
21	平田地域振興事業	ひらた文化祭、さしこ教室、rikkoの楽しい音楽会、石黒光二氏彫刻作品を巡るバスツアー等	平田総合支所		○						○				○		○									4
22	小学生観劇教室		学校教育課			○																				1
23	小中学校音楽教室支援事業		学校教育課			○																				1
24	文化活動重点事業		学校教育課			○																				1
25	ミライニ管理運営事業	旧:酒田コミュニケーションポート整備事業、旧:ブックススタート支援事業	社会教育課	○	○		○	○				○					○				○					7
26	生涯学習推進講座開催事業	酒田愛ごはん、幼児すてっぷ出前講座、親子ですくすく出前講座、マリーンジュニア合唱団、生涯学習まつり、文化伝承事業	社会教育課	○	○		○	○				○	○	○	○		○	○								10
27	生涯学習施設「里仁館」運営支援事業		社会教育課	○	○		○	○			○			○												6
28	美術館管理事業		文化政策課	○	○		○	○									○				○					6
29	土門拳記念館管理事業		文化政策課	○	○		○	○									○				○			○		7
30	市民会館施設整備事業		文化政策課	○																						1
31	文化活動支援事業	市民芸術祭開幕公演委託、本間美術館活動補助金	文化政策課	○	○		○	○	○	○						○		○			○			○		10
32	庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業		文化政策課					○																		1
33	土門拳文化賞顕彰事業		文化政策課					○																	○	2
34	文化芸術推進事業	アウトリーチ、地域ワンコインコンサート、各種ワークショップ、いろいろな展、レセプション育成、アートスタート、各団体への補助等	文化政策課		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		○					○	○		13
35	スクールプログラム事業		文化政策課		○	○	○	○	○								○						○			7
36	文化財保護総務管理事業	指定文化財保存支援、民俗芸能フェスタ、黒森歌舞伎、松山能等活動支援	文化政策課	○	○	○	○	○								○		○								7
37	文化資料館(仮称)整備事業		文化政策課	○	○											○		○								4
38	史跡旧鍛屋修復事業		文化政策課	○												○		○								3
39	光丘文庫デジタルアーカイブ事業		文化政策課	○												○										2
計				13	16	6	10	13	4	7	5	1	5	8	9	17	2	11	5	7	4	2	5	150		

基本的施策1 文化芸術活動を行う環境の整備

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
コミュニティ振興事業	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動に、ひとづくり・まちづくり総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。(R1年度より人材育成のための加算を設定)	継続
地域振興事業(松山の宝推進事業)	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りながら、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナ対策により一部中止あるいは制限の中での実施となっている。また、少子高齢化に伴う担い手や参加者が減少している。	継続
ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションサポート整備事業)	社会教育課	【指定管理者】文化芸術イベントを行うことを想定した企画コーナーを作ること	○美術館等で開催される企画展と連携した企画展示を複数回実施した。 ○東北芸術工科大と連携しミライニを起点とした市内各所でのアートイベント(SAKATART)を開催した。 ○芸工大教授と市内美術館学芸員とのトークセッションを開催した。 ○酒田市ふるさと栄誉賞受賞を記念した「布川ゆうじの仕事」展を開催した。 ●多様な分野との連携	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
市民会館施設整備事業(旧:文化施設長寿命化対策事業)	文化政策課	酒田市公共施設適正化計画及び実施計画に基づき、市民会館の長寿命化対策事業を実施する。	○令和4年度より「市民会館施設整備事業」と事業を改め、市民会館非常用照明のLED改修工事を実施した。(工事額:4,829,000円) ●老朽化する施設の安全管理や利便性の確保が課題となる。	継続
土門拳記念館管理事業	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続
文化活動支援事業	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
文化財保護総務管理事業	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
史跡旧燈屋修復事業	文化政策課	経年劣化した史跡旧燈屋の保存修理を行った。	○継続して経年劣化した史跡旧燈屋の保存修理を行った。 ●国・県の予算が厳しい状況は続いており、工事期間にも影響が出ている。新たな財源についても引き続き検討していく。	継続
光丘文庫デジタルアーカイブ事業	文化政策課	光丘文庫デジタルアーカイブのコンテンツを拡充させた。	○コンテンツを拡充するとともに、これまで課題であったデジタルアーカイブのサーバー容量の問題を解決するため、サーバー容量を増加することで当面の掲載可能数を確保した。 ●令和6年度の文化資料館の開館に向け、登録済みのコンテンツの内容と登録するべきコンテンツの考え方を整理し、現資料館等のデータをどのように掲載していくか課題である。	継続
文化資料館(仮称)整備事業	文化政策課	中央図書館移転後の跡地に資料館・光丘文庫・公文書館・市史編纂の機能を持つ「過去にあった酒田の出来事や文化を未来に伝えるための総合施設を整備。	○令和6年度の開館に向けて、中央図書館跡地に施設改修及び消防設備工事を行うために設計業務委託を行った。 ●酒田市の歴史や文化を未来に伝えるための整備を図っていく。	新規

基本的施策2 誰もが文化芸術に親しむことが出来る文化的環境の整備

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
市民協働・公益活動推進事業	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○現行「公益活動推進アクションプラン」の計画期間が令和4年度までだったため、公益活動団体へのアンケート調査や外部委員会への諮問等を経て、令和5年度～令和9年度までの新たなアクションプランを策定した。 ●アクションプランに沿い、ボランティアや公益活動の推進に取り組んでいく。	継続
地域活動支援センター事業	福祉企画課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みつばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナ禍が落ち着き教室や講座を再開した。みつばは継続して作業訓練を実施している。	継続
老人クラブ助成事業	高齢者支援課	地域を基盤として活動する老人クラブに対し、教養講座等の開催、参加にかかる費用の助成を行う。	○高齢者の自主組織である老人クラブに対して助成し、高齢者の健康保持、教養を高めるための学習活動、社会奉仕活動の生きがいづくり等を促進しました。 ○地域を基盤としてボランティア活動、社会奉仕活動等を行う高齢者団体である老人クラブの活動は、高齢者の生きがいとなっているほか、一人暮らしや高齢夫婦世帯の高齢者が増えている中で、同クラブの活動が地域での支え合いや見守りにもつながっています。 ●近年、高齢者のライフスタイルの多様化により、クラブ数及び会員数の減少が続いており、老人クラブ会員の高齢化による役員のなり手不足や退職年齢の引き上げ等の影響により新たな会員が増えないことなどが課題となっています。	継続
地域振興事業	八幡総合支所	地元の団体による各種作品展、ステージ発表会を開催し住民同士の参加交流の場を提供する。クラシックコンサートの開催や百人一首かるた大会を開催し、音楽、芸術に触れる場、体験する場を提供する。	○八幡地域の芸術文化を鑑賞する機会や発表・交流・競技の場として、一定の参加団体や観客数を得て地域に定着している。新型コロナウイルス感染症流行後、はじめて3事業全て(クラシックコンサート、やわた文化祭(展示部門、ステージ部門)、百人一首かるた大会)を中止することなく実施できた。 ●少子高齢化に伴う参加団体・参加者の減少。	継続
地域振興事業	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
地域振興事業	平田総合支所	誰もが文化芸術に親しむことが出来るよう、ひらた文化祭(各種作品展、ステージ発表会)を開催する。	○ひらた文化祭を開催し、個人や文化芸術団体の多様な文化芸術に親しむことができた。新型コロナウイルス感染症の影響により、保育園と中学校のステージ発表ができなかったが、展示部門に参加をするなどして、可能な範囲での参加ができた。(展示来場者数:526人、催し来場者数:815人) ○地域おこし協力隊企画のイベントも同時開催し、相乗効果が得られた。(来場者:70人) ●文化祭実行委員の高齢化等により運営に携わる人が不足している。	継続
ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションポート整備事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】 ・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供、ミライニとしての企画イベントの実施 ・文化芸術資料の充実、レファレンスの充実	○イブニングコンサートをはじめとした各種イベントへ場を提供するとともに、運営の支援も行った。 ○ミライニを起点とした市内各所でのアートイベント(SAKATART)開催に合わせワークショップを実施した。 ○酒田光陵高校と連携し、小学生までを対象に「お絵描き水族館」を開催した。 ○クラフトマルシェを開催し、作家と市民の交流やワークショップによる体験活動を支援した。 ○写真家等市内在住のアーティストに関わる企画展を開催し、併せて作品の展示等を実施した。 ○視覚障がい者や聴覚障がい者も楽しめる作品を含む多様な映画作品の上映会を企画、実施した。 ○絵本専門士や絵本作家を講師に招き、親子や児童を対象に絵本作り講座を開催した。 ○市内在住の写真家を講師に招き、親子向け写真講座を開催した。 ○特に7門(芸術分野)について資料の充実を推進した。 ●多様な分野との連携	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業(再掲)	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続

## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

文化芸術推進事業	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場も増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
スクールプログラム実施事業	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続
文化資料館(仮称)整備事業(再掲)	文化政策課	中央図書館移転後の跡地に資料館・光丘文庫・公文書館・市史編纂の機能を持つ「過去にあった酒田の出来事や文化を未来に伝えるための総合施設を整備。	○令和6年度の開館に向けて、中央図書館跡地に施設改修及び消防設備工事を行うために設計業務委託を行った。 ●酒田市の歴史や文化を未来に伝えるための整備を図っていく。	新規

## 基本的施策3 学校教育における文化芸術活動の充実

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
小学生観劇教室	学校教育課	小学6年生対象の劇団四季によるミュージカル。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、「動画配信」という形式で実施する旨の連絡があった。酒田市は実施せず。	●従来の生で演劇を鑑賞するよさを重視することから、「動画配信」形式の本事業は実施しなかった。 次年度以降は従来通りの開催方法との通達があったため、実施する方向で検討している。	継続
小中学校音楽教室支援事業	学校教育課	市内の希望する小中学校を対象に、山形交響楽団による音楽教室(スクールコンサート)を実施する。令和4年度は、小学校は5校、中学校は2校の実施だった。	○オーケストラの演奏を目の前で触れることで、児童生徒の豊かな情操の涵養につながっている。 ●希望する学校が減少していること、山形交響楽団が設定する基本料金に対応する児童生徒の鑑賞量の高騰、同じような事業が文化芸術係でも実施しており内容が重複している。	廃止
文化活動重点事業	学校教育課	小・中学校が行う次の活動を支援する。 ・中学校における吹奏楽合同演奏会の実施 ・外部講師招聘による中学校の合唱活動の充実 ・小学校における日本の伝統音楽(お琴)にふれる体験学習の充実	○吹奏楽合同演奏会、中学校の合唱活動共に外部講師を招聘して実施することができ、充実した学びの機会となった。 ●希望ホールの使用可能日及び新型コロナウイルス感染症防止の関係から参集校を2日に分けて実施したが、できるだけ全校を一斉に参集して実施できるように検討する。 ●小学校におけるお琴教室は新型コロナウイルス感染症防止のため実施できなかった。令和5年度からは市事業ではなく、各学校で実施していく。	内容変更
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場も増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	内容変更
スクールプログラム実施事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続

基本的施策4 将来の文化芸術の担い手の育成

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
地域振興事業(再掲)	八幡総合支所	酒田・鶴岡・庄内町・遊佐など庄内地域の小・中学生、高校生、大学生などの若者に八幡のイベントに参加してもらい、文化芸術に触れることで将来の文化芸術の担い手育成を図る。	○百人一首かるた大会では八幡地区外の酒田市、鶴岡市内の小中校生、高校生、社会人を含め合計57名の参加があった。 ●少子高齢化に伴う参加団体・参加者の減少。大会の周知不足。	継続
ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションポート整備事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】(再掲) ・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供時やミライニとしての企画イベントの実施時のワークショップの積極的な実施 ・文化芸術資料の充実、レファレンスの充実	(再掲) ○イブニングコンサートをはじめとした各種イベントへ場を提供するとともに、運営の支援も行った。 ○ミライニを起点とした市内各所でのアートイベント(SAKATART)開催に合わせワークショップを実施した。 ○酒田光陵高校と連携し、小学生までを対象に「お絵描き水族館」を開催した。 ○クラフトマルシェを開催し、作家と市民の交流やワークショップによる体験活動を支援した。 ○写真家等市内在住のアーティストに関わる企画展を開催し、併せて作品の展示等を実施した。 ○視覚障がい者や聴覚障がい者も楽しめる作品を含む多様な映画作品の上映会を企画、実施した。 ○絵本専門士や絵本作家を講師に招き、親子や児童を対象に絵本作り講座を開催した。 ○市内在住の写真家を講師に招き、親子向け写真講座を開催した。 ○特に7門(芸術分野)について資料の充実を推進した。 ●多様な分野との連携	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業(再掲)	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
スクールプログラム実施事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞することで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続

基本的施策5 文化芸術活動を支える人材の育成

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
コミュニティ振興事業(再掲)	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動に、ひとづくり・まちづくり総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。(R1年度より人材育成のための加算を設定)	継続
地域振興事業(再掲)	八幡総合支所	地区内だけではなく、地区外の若者などこれからの文化芸術を担う人材の交流・学びの場を提供する。	○百人一首かるた大会では八幡地区外の酒田市、鶴岡市内の小中校生、高校生、社会人を含め合計57名の参加があった。 ●少子高齢化に伴う参加団体・参加者の減少。大会の周知不足。	継続
ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションサポート整備事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】(再掲) ・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供時やミライニとしての企画イベントの実施時のワークショップの積極的な実施 ・文化芸術資料の充実、レファレンスの充実	(再掲) ○イブニングコンサートをはじめとした各種イベントへ場を提供するとともに、運営の支援も行った。 ○ミライニを起点とした市内各所でのアートイベント(SAKATART)開催に合わせワークショップを実施した。 ○酒田光陵高校と連携し、小学生までを対象に「お絵描き水族館」を開催した。 ○クラフトマルシェを開催し、作家と市民の交流やワークショップによる体験活動を支援した。 ○写真家等市内在住のアーティストに関わる企画展を開催し、併せて作品の展示等を実施した。 ○視覚障がい者や聴覚障がい者も楽しめる作品を含む多様な映画作品の上映会を企画、実施した。 ○絵本専門士や絵本作家を講師に招き、親子や児童を対象に絵本作り講座を開催した。 ○市内在住の写真家を講師に招き、親子向け写真講座を開催した。 ○特に7門(芸術分野)について資料の充実を推進した。 ●多様な分野との連携	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続
美術館管理事業(再掲)	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
庄内文化賞・阿部次郎文化賞顕彰事業	文化政策課	庄内文化賞は芸術学術分野での活動において優れた成果をあげた庄内地方に居住する個人又は団体に授与を行う。阿部次郎文化賞は阿部次郎に関する研究、哲学美学の研究に顕著な実績のある個人又は団体に授与を行った。	○庄内文化賞、阿部次郎文化賞共に規則に基づき、芸術、学術等の分野で優れた業績のあった者に対し、顕彰した。 ●阿部次郎文化賞については応募者が減少していることから今後の賞のあり方が課題である。	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続
土門拳文化賞顕彰事業	文化政策課	土門拳が生涯を通じ追求したドキュメント性、メッセージ性の高い組写真の公募展を通じ、故人の偉大な功績を記念するとともに土門拳記念館の魅力を全国に向け発信した。	○全国各地から106人、116点の応募があり、選考の結果、土門拳文化賞(1名)と同奨励賞(3名)を授与した。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続

## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
スクールプログラム実施事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続

## 基本的施策6 市民との協働・共創による事業展開

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
市民協働・公益活動推進事業(再掲)	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○現行「公益活動推進アクションプラン」の計画期間が令和4年度までだったため、公益活動団体へのアンケート調査や外部委員会への諮問等を経て、令和5年度～令和9年度までの新たなアクションプランを策定した。 ●アクションプランに沿い、ボランティアや公益活動の推進に取り組んでいく。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
スクールプログラム実施事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続

## 基本的施策7 地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
コミュニティ振興事業(再掲)	まちづくり推進課	コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等の活動に対する支援を行う。	○コミュニティ振興会の運営及び自治振興、環境衛生、防災防犯、健康福祉、生涯学習、体育振興、青少年育成、婦人活動、高齢福祉等に対する活動に、ひとづくり・まちづくり総合交付金を交付することにより支援を行った。 ●地域活動への参加を促進し、地域づくりを担う人材の育成が必要である。(R1年度より人材育成のための加算を設定)	継続
地域振興事業(再掲)	八幡総合支所	八幡4地区のコミュニティ振興会と連携することで、地元の方が参加しやすい環境を作り、より多くの参加者確保を図る。	○やわた文化祭(展示部門)において、八幡4地区のコミュニティ振興会女性部が作成した手芸品など20団体1個人856作品の展示を行い、10月29日から31日までの3日間でのべ1,650名の来客があった。 ●高齢化に伴う参加者の減少。	継続
地域振興事業(再掲)	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
地域振興事業(松山の宝推進事業)(再掲)	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りながら、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナ対策により一部中止あるいは制限の中での実施となっている。また、少子高齢化に伴う担い手や参加者が減少している。	継続
地域振興事業(再掲)	平田総合支所	文化的環境づくりのため、各コミュニティ振興会が行う文化祭等について平田地域版の広報「ひらたタウンニュース」にて周知する。	●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続



## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。</li> <li>○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。</li> <li>●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題</li> <li>●本間美術館:運営の安定化が課題</li> </ul>	継続
--------------	-------	---	---	----

### 基本的施策8 文化芸術による国際交流

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の実行状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
客船誘致事業	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客(乗船客)を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響及び天候不良によりクルーズ船の寄港は無かった。</li> <li>●クルーズ船受入の(人的、財的)効率化・最適化。</li> </ul>	継続
国際交流推進事業	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。デラウェア市とは、当該市長に酒田市国際交流協会主催の本市をPRする動画コンテストの審査員として参加してもらうという交流を行った。</li> <li>●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。</li> </ul>	継続
青少年国内外交流事業	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部オンライン交流等を行った。	継続
「少年の翼」交流事業	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、相手方の訪問受入れ時に小規模の交流を行った。	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	継続

### 基本的施策9 専門性の高い文化の仕掛け人の配置

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の実行状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	専門性の高い文化の仕掛け人(アートコーディネーター)を配置し文化芸術の視点を活かした効果的な事業展開を行った	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。(再掲)</li> <li>○その他、演劇ワークショップ(実施5回60人参加)、ピアノ公開レッスン(6人参加)、レセプション育成講座(実施5回14人参加)などの各種事業を展開した。</li> <li>●コーディネーターとの連携が課題</li> </ul>	継続

### 基本的施策10 文化芸術による社会包摂

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の実行状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
地域活動支援センター事業(再掲)	福祉企画課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みつばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナ禍が落ち着き教室や講座を再開した。みつばは継続して作業訓練を実施している。	継続
老人クラブ助成事業(再掲)	高齢者支援課	地域を基盤として活動する老人クラブに対し、教養講座等の開催、参加にかかる費用の助成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の自主組織である老人クラブに対して助成し、高齢者の健康保持、教養を高めるための学習活動、社会奉仕活動の生きがいづくり等を促進しました。</li> <li>○地域を基盤としてボランティア活動、社会奉仕活動を行う高齢者団体である老人クラブの活動は、高齢者の生きがいとなっているほか、一人暮らしや高齢夫婦世帯の高齢者が増えている中で、同クラブの活動が地域での支え合いや見守りにもつながっています。</li> <li>●近年、高齢者のライフスタイルの多様化により、クラブ数及び会員数の減少が続いており、老人クラブ会員の高齢化による役員のなり手不足や退職年齢の引き上げ等の影響により新たな会員が増えないことなどが課題となっています。</li> </ul>	継続
ミライニ管理運営事業(旧:ブックスタート支援事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】(再掲) ・アートマルシェなど文化芸術イベントを行う場合の場所の提供、ミライニとしての企画イベントの実施 ・文化芸術資料の充実、レファレンスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>(再掲)</li> <li>○視覚障がい者や聴覚障がい者も楽しめる作品を含む多様な映画作品の上映会を企画、実施した。</li> <li>○特に7門(芸術分野)について資料の充実を推進した。</li> </ul>	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。</li> <li>●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。</li> </ul>	継続

## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
--------------	-------	--	---	----

### 基本的施策11 文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
市民協働・公益活動推進事業(再掲)	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○現行「公益活動推進アクションプラン」の計画期間が令和4年度までだったため、公益活動団体へのアンケート調査や外部委員会への諮問等を経て、令和5年度～令和9年度までの新たなアクションプランを策定した。 ●アクションプランに沿い、ボランティアや公益活動の推進に取り組んでいく。	継続
地域活動支援センター事業(再掲)	福祉企画課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みつばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナ禍が落ち着き教室や講座を再開した。みつばは継続して作業訓練を実施している。	継続
地域振興事業(再掲)	八幡総合支所	やわた文化祭や百人一首かるた大会など若年層から高齢者の方まで幅広い年代の方が参加し交流できる場を提供する。	○やわた文化祭や百人一首かるた大会は、八幡地区の幅広い年代の地域住民が参加するイベントとして定着している。 ●少子高齢化に伴う参加団体、参加者の減少。	継続
地域振興事業(再掲)	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続
地域振興事業(再掲)	平田総合支所	平田地域のゆかりの文化・芸術を活かしたイベントを開催し、地域の宝に触れる機会を提供する。	●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
生涯学習施設「里仁館」運営支援事業(再掲)	社会教育課	庄内一円の生涯学習振興をさらに推進するため、教養講座や親子講座、特別講座等の各種事業を実施する「里仁館」の運営費に助成を行う。 社会の変化に伴う学習ニーズにこたえる講座 ・親子講座 ・地域活性化につながる人材育成	○コロナ禍における学習の在り方を検討し、現地学習を極力避けるなどの対策をとって講座を実施した。 ●持続可能な生涯学習施設としてのあり方。酒田市民の学習者数を増やすこと、受講料の見直し等。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続

### 基本的施策12 多様な分野との連携及びネットワークづくり

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
市民協働・公益活動推進事業(再掲)	まちづくり推進課	ボランティア・公益活動センターの運営については、社会福祉協議会に委託し、今まで以上に連携を図りながら、公益活動団体に対する研修・会議の開催や情報提供を行う。	○現行「公益活動推進アクションプラン」の計画期間が令和4年度までだったため、公益活動団体へのアンケート調査や外部委員会への諮問等を経て、令和5年度～令和9年度までの新たなアクションプランを策定した。 ●アクションプランに沿い、ボランティアや公益活動の推進に取り組んでいく。	継続
地域活動支援センター事業(再掲)	福祉企画課	障がい者の創作的活動、生産活動、社会との交流の促進等の機会提供などの支援を行う。特定非営利活動法人みつばに通所して作業訓練等をおこない、教室型では身体障害者福祉センターに通所して、創作的活動の講座等を受講する。	○教室型の身体障害者福祉センターは、コロナ禍が落ち着き教室や講座を再開した。みつばは継続して作業訓練を実施している。	継続

令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

客船誘致事業(再掲)	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客(乗船客)を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響及び天候不良によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●クルーズ船受入の(人的、財的)効率化・最適化。	継続
国際交流推進事業(再掲)	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。デラウェア市とは、当該市長に酒田市国際交流協会主催の本市をPRする動画コンテストの審査員として参加してもらうという交流を行った。 ●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。	継続
青少年国内外交流事業(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部オンライン交流等を行った。	継続
「少年の翼」交流事業(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症感染防止のため、相互訪問は実施せず、相手方の訪問受け入れ時に小規模の交流を行った。	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	継続
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続

基本的施策13 文化財等の地域資源の活用

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
山居倉庫周辺整備事業	都市デザイン課	中心市街地において山居倉庫周辺エリアの魅力、観光交流機能の向上を図ることにより民間の投資を呼び込み、エリアの価値向上を図るための取組を行う。	○酒田商業高校跡地について、中心市街地の活性化と未利用地の有効活用を図るため、民間の資金やアイデアを活用し、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的な賑わいが生まれる機能を整備するため、令和4年度は跡地の開発を行う事業者を決定し、実施に向けた基本協定を締結した。	継続
国際交流推進事業(再掲)	交流観光課	姉妹都市、友好都市等との国際交流活動を通じ、市民同士の相互理解と友好親善を深めるとともに、国際感覚豊かな人材の育成を図っている。	○新型コロナウイルス感染症拡大のため、訪問受け入れ等はすべて中止。デラウェア市とは、当該市長に酒田市国際交流協会主催の本市をPRする動画コンテストの審査員として参加してもらうという交流を行った。 ●オンライン交流の実施に当たっては、とくに米国との時差が問題である。	継続
北前船寄港地交流推進事業	交流観光課	北前船日本遺産推進協議会は、日本遺産に認定された「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(以下「北前船寄港地」という。)を活用し、加盟自治体及び団体の連携のもと、観光振興及び地域活性化の推進を図ることを目的に、平成29年5月11日設立された。	○4年度末で49市町が加盟。フランス・パリと沖縄でフォーラムが開催された。 ●加盟市町が増加し、コロナ禍もあって会全体としての活動がやや停滞している。ブロックごとの活動にするとかの推進の手法が課題である。	継続
青少年国内外交流事業(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、相互訪問は実施せず、一部オンライン交流等を行った。	継続
「少年の翼」交流事業(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症感染防止のため、相互訪問は実施せず、相手方の訪問受け入れ時に小規模の交流を行った。	継続
中学生海外派遣事業「はばたき」(再掲)	交流観光課	新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	○新型コロナウイルス感染症防止のため、令和4年度の実施を中止した。	継続
地域振興事業(再掲)	八幡総合支所	八幡地区の伝統芸能を後世に繋いでいくために伝統芸能や文化財などを披露する場を設け、伝統芸能や文化財に触れることのできる場を提供する。	○八幡地区の伝統芸術を発表する場としてやわた文化祭(展示部門、ステージ部門)を開催。展示部門では1,650名、ステージ発表では300名(出演者を含む)の来客があった。 ●高齢化に伴う参加団体、参加者の減少。	継続
地域振興事業(再掲)	松山総合支所	松山芸術祭の支援。コミュニティ振興会単位での作品展示とステージ発表の情報発信。	○各地域及び各団体が各々新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら作品の展示やステージ発表等の芸術文化活動に取り組むことができた。 ●芸文協松山支部会員が減少している。	継続

## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

地域振興事業(松山の宝推進事業)(再掲)	松山総合支所	松山の宝推進協議会と連携し、歴史、文化及び景観など有形無形の資産を活用する事業を実施し、地域の内外に「松山の宝」として発信を行う。	○新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りながら、城下町であった歴史文化という当地の特色を生かした事業を展開できた。 ●新型コロナ対策により一部中止あるいは制限の中での実施となっている。また、少子高齢化に伴う担い手や参加者が減少している。	継続
地域振興事業(再掲)	平田総合支所	平田地域の地域資源を活用した各種事業を各団体と連携して実施する。	○ひらた賑わい創出事業「里山DAY in たざわ」にて旧阿部家にてお茶会、オカリナ・ギター演奏、地域おこし協力隊による「旧阿部家と茅葺屋根の守人」の展示を行った。(参加者:28人) ○平田地域の伝統技術を次世代に継承するため、5月から9月まで初級・中級・上級コースの「平田さしこ教室」を開催し、29名が受講した。 ●平田さしこ教室講師の高齢化	継続
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えたと予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	内容変更
史跡旧燈屋修復事業(再掲)	文化政策課	経年劣化した史跡旧燈屋の保存修理を行った。	○継続して経年劣化した史跡旧燈屋の保存修理を行った。 ●国・県の予算が厳しい状況は続いており、工事期間にも影響が出ている。新たな財源についても引き続き検討していく。	継続
光丘文庫デジタルアーカイブ事業(再掲)	文化政策課	光丘文庫デジタルアーカイブのコンテンツを拡充させた。	○コンテンツを拡充するとともに、これまで課題であったデジタルアーカイブのサーバー容量の問題を解決するため、サーバー容量を増加をすることで当面の掲載可能数を確保した。 ●令和6年度の文化資料館の開館に向け、登録済みのコンテンツの内容と登録するべきコンテンツの考え方を整理し、現資料館等のデータをどのように掲載していくか課題である。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
文化資料館(仮称)整備事業(再掲)	文化政策課	中央図書館移転後の跡地に資料館・光丘文庫・公文書館・市史編纂の機能を持つ「過去にあった酒田の出来事や文化を未来に伝えるための総合施設を整備。	○令和6年度の開館に向けて、中央図書館跡地に施設改修及び消防設備工事を行うために設計業務委託を行った。 ●酒田市の歴史や文化を未来に伝えるための整備を図っていく。	新規

## 基本的施策14 酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
山居倉庫周辺整備事業(再掲)	都市デザイン課	中心市街地において山居倉庫周辺エリアの魅力、観光交流機能の向上を図ることにより民間の投資を呼び込み、エリアの価値向上を図るための取組を行う。	○酒田商業高校跡地について、中心市街地の活性化と未利用地の有効活用を図るため、民間の資金やアイデアを活用し、山居倉庫周辺エリアに交流と日常的な賑わいが生まれる機能を整備するため、令和4年度は跡地の開発を行う事業者を決定し、実施に向けた基本協定を締結した。	継続
さかたらしい景観づくり事業	都市デザイン課	酒田市景観計画および酒田市景観条例を策定し、良好な景観形成の推進・誘導を図るとともに、本市の景観を特徴付ける特に重要な地域を景観形成重点地域に指定し、景観助成金等により魅力ある景観づくりを行う。	○一定規模を超える建築行為等について届出してもらい、酒田市景観計画で定める景観形成基準に適合するよう説明、指導し、一定程度良好な景観の保全に寄与している。 ●景観形成重点地域において基準に適合しない一般住宅の需要増にともない、景観助成金が十分に活用されていないことから、魅力ある景観づくりのための手法の再検討が必要な状況である。	内容変更

## 基本的施策15 文化施設の活用

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
地域振興事業(松山の宝推進事業)(再掲)	松山総合支所	松山歴史公園を会場とした「まつやま大手門くらふとフェア」を開催するほか、イルミネーション事業を各地区で開催する。	○来場者への検温、出展者数の制限や飲食はテイクアウトにするなど新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら、「まつやま大手門くらふとフェア」を開催した。イルミネーション事業は、内郷地区で実施した。 ●新型コロナ対策により制限の中での実施となっている。	継続

## 令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションサポート整備事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】市内美術館等のイベント情報発信や各館の紹介を行うこと。出張展示などの模索を行う。(芸術文化に触れる場所として敷居を低くする役目)	○光丘文庫のコーナーを設け、資料の展示紹介を継続して実施した。 ○酒田市美術館の企画展と連携した企画展示を実施した。	継続 ※令和4年度より指定管理
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続
美術館管理事業(再掲)	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
文化財保護総務管理事業(再掲)	文化政策課	指定文化財所有者・保存団体への支援、民俗芸能活動の支援を行った。	○指定文化財所有者、保存団体への支援を行った。 ○第53回民族芸能フェスタを開催し伝承活動を支援した。出場は6団体。令和4年度からは民俗芸能保存会が主催となっている。 ●前年度に引き続き、コロナ禍で活動が制限された。令和5年度以降、コロナ禍の終息に伴い各保存団体の活動も再開され、活動可能な場が増えると予想されることから、活動再開に向けた支援が課題。	継続
史跡旧鎧屋修復事業(再掲)	文化政策課	経年劣化した史跡旧鎧屋の保存修理を行った。	○継続して経年劣化した史跡旧鎧屋の保存修理を行った。 ●国・県の予算が厳しい状況は続いており、工事期間にも影響が出ている。新たな財源についても引き続き検討していく。	継続
スクールプログラム実施事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続
文化資料館(仮称)整備事業(再掲)	文化政策課	中央図書館移転後の跡地に資料館・光丘文庫・公文書館・市史編纂の機能を持つ「過去にあった酒田の出来事や文化を未来に伝えるための総合施設を整備。	○令和6年度の開館に向けて、中央図書館跡地に施設改修及び消防設備工事を行うために設計業務委託を行った。 ●酒田市の歴史や文化を未来に伝えるための整備を図っていく。	新規

## 基本的施策16 伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
食習慣改善事業	健康課	酒田市広報わたしの街さかたに掲載されたレシピを中心にまとめたレシピ本「酒田ごはん」を令和元年度から販売し、食文化の伝承に努めた。 酒田市食生活改善推進協議会協力のもとホームページでレシピを紹介した。	○「酒田ごはん」は2020年1月17日に1,500冊発行し1か月で売り切れ、2020年3月27日に1,500冊増刷し、2021年2月で完売した。 ○2022年1月に1,500冊増刷することが決まり、5月20日に発売。年間で925冊売れた。2023年9月までは260冊売れた。 ○市外・県外の方からも購入していただき、酒田の食文化について発信した。 ○ホームページにレシピを紹介している。	継続
酒の酒田の酒まつり事業	交流観光課	本市の売りである「地酒」を中心とした食に係るイベント等を実施し、「酒の酒田」の認知度向上と観光誘客に繋げる。	○5月の「酒の酒田の酒まつり～春酔の宴～」はコロナの影響を勘案して開催せず、1月の酒田日本海寒鱈まつりに合わせて「酒の酒田の酒まつり」を開催した。 ●1月の酒まつりは、酒の仕込みの時期と重なるため、各蔵の協力が得にくい。	継続
さかた農産物販路・消費拡大事業	農政課	・酒田市食育・地産地消推進委員会を開催し、食育・地産地消及び6次産業化の推進に関する現状や課題を委員や関係各課と共有し、第4次の「酒田市食育・地産地消計画(酒田市6次産業化戦略)」を策定した。 ・小学校等との食育交流活動を行う農業者へ酒田市食育交流活動補助金を交付した。	○委員会において、令和4年度から5年間を計画期間としている「酒田市食育・地産地消推進計画(酒田市6次産業化戦略)」について、各施策の取組状況を把握し、委員や各課と情報交換を行った。 ○令和4年度における酒田市食育交流活動補助金の交付件数は2件だった。 ●食育・地産地消を強力に推進していくための新たな取り組みや、「横のつながり」を意識した実践が今後の課題である。	継続

令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

水産業振興総務管理事業	農林水産課	魚食普及のため、市HPで旬の魚の紹介と、調理方法に関する関連ページの情報発信を行った。	○地元で獲れる魚を認識し、魚食を親しむ効果が期待できる。 ●情報をより広く閲覧してもらうための工夫が必要。	継続
生涯学習推進講座開催事業(再掲)	社会教育課	「いつでも」「どこでも」「だれでも」市民が気軽に生涯学習ができるよう、現代的課題や地域課題解決のための各種講座等の開催。	○コロナ禍のなか、講座内容、回数、定員等の見直しにより実施した。 ●事業実施のあり方や情報発信の方法等の検討については引き続き課題である。	継続

基本的施策17 観光との連携

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
客船誘致事業(再掲)	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客(乗船客)を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響及び天候不良によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●クルーズ船受入の(人的、財的)効率化・最適化。	継続
酒の酒田の酒まつり事業(再掲)	交流観光課	本市の売りである「地酒」を中心とした食に係るイベント等を実施し、「酒の酒田」の認知度向上と観光誘客に繋げる。	○5月の「酒の酒田の酒まつり～春酔の宴～」はコロナの影響を勘案して開催せず、1月の酒田日本海寒鱈まつりに合わせて「酒の酒田の酒まつり」を開催した。 ●1月の酒まつりは、酒の仕込みの時期と重なるため、各蔵の協力が得にくい。	継続
北前船寄港地交流推進事業(再掲)	交流観光課	北前船日本遺産推進協議会は、日本遺産に認定された「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」(以下「北前船寄港地」という。)を活用し、加盟自治体及び団体の連携のもと、観光振興及び地域活性化の推進を図ることを目的に、平成29年5月11日設立された。	○4年度末で49市町が加盟。フランス・パリと沖縄でフォーラムが開催された。 ●加盟市町が増加し、コロナ禍もあって会全体としての活動がやや停滞している。ブロックごとの活動にするとかの推進の手法が課題である。	継続
ミライニ管理運営事業(旧:酒田コミュニケーションポート整備事業)(再掲)	社会教育課	【指定管理者】市内美術館等のイベント情報発信や各館の紹介を行い、旅行者や市民に周知すること	○チラシ、ポスターの設置と掲示を行った。 ○観光案内所にて観光客を中心に、情報提供と案内を行った。	継続 ※令和4年度より指定管理
美術館管理事業(再掲)	文化政策課	酒田市美術館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するほか、市所蔵美術品(油彩画)の修復と収蔵庫燻蒸を実施	○企画展(6回)やギャラリートーク・ワークショップの開催など、質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:35,392人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることが一番の課題となっている。	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続

基本的施策18 産業との連携

事業名等	令和5年度担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
客船誘致事業(再掲)	商工港湾課	酒田港にクルーズ船寄港を誘致することによって本市への観光客(乗船客)を増やし、賑わいの創出と観光・購買消費による地域経済の活性化につなげる。	○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響及び天候不良によりクルーズ船の寄港は無かった。 ●クルーズ船受入の(人的、財的)効率化・最適化。	継続
酒の酒田の酒まつり事業(再掲)	交流観光課	本市の売りである「地酒」を中心とした食に係るイベント等を実施し、「酒の酒田」の認知度向上と観光誘客に繋げる。	○5月の「酒の酒田の酒まつり～春酔の宴～」はコロナの影響を勘案して開催せず、1月の酒田日本海寒鱈まつりに合わせて「酒の酒田の酒まつり」を開催した。 ●1月の酒まつりは、酒の仕込みの時期と重なるため、各蔵の協力が得にくい。	継続
さかた農産物販路・消費拡大事業(再掲)	農政課	・酒田市食育・地産地消推進委員会を開催し、食育・地産地消及び6次産業化の推進に関する現状や課題を委員や関係各課と共有し、第4次の「酒田市食育・地産地消計画(酒田市6次産業化戦略)」を策定した。 ・小学校等との食育交流活動を行う農業者へ酒田市食育交流活動補助金を交付した。	○委員会において、令和4年度から5年間を計画期間としている「酒田市食育・地産地消推進計画(酒田市6次産業化戦略)」について、各施策の取組状況を把握し、委員や各課と情報交換を行った。 ○令和4年度における酒田市食育交流活動補助金の交付件数は2件だった。 ●食育・地産地消を強力に推進していくための新たな取り組みや、「横のつながり」を意識した実践が今後の課題である。	継続

令和4年度酒田市文化芸術推進計画関連事業(成果と課題)

水産業振興総務管理 事業(再掲)	農林水産課	魚食普及のため、市HPで旬の魚の紹介と、調理方法に関する関連ページの情報発信を行った。	○地元で獲れる魚を認識し、魚食を親しむ効果が期待できる。 ●情報をより広く閲覧してもらうための工夫が必要。	継続
---------------------	-------	---	--	----

基本的施策19 組織体制の強化

事業名等	令和5年度 担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
スクールプログラム実施 事業(再掲)	文化政策課	市内小中学校の授業の一環として市美術館及び土門拳記念館での鑑賞活動を取り入れ多様性に対応した人材の育成を目指した。	○美術館において本物の芸術に出会い対話型鑑賞によって鑑賞をすることで自己肯定感を高め、多様性を認める柔軟な考え方を養うことに繋がった。また土門拳記念館を通じ郷土愛の醸成を育むことができた。R4は延べ40回実施(参加者数1,195人) ●土門拳記念館と酒田市美術館の実施割合に偏りがあり学芸員の負担が大きくなっていることが課題。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続

基本的施策20 市民の視点にたった情報発信・広報戦略

事業名等	令和5年度 担当課	令和4年度の取組状況	令和4年度の事業の評価 成果(○)と課題(●)	次年度以降(継続、廃止、内容変更)
広報広聴活動推進事業	市長公室	文化芸術に関するイベントや事業を広報紙で市民に広く周知する。	文化芸術に関する事業のイベント告知や取材記事を広報に掲載し、市民への周知を図った。今後は、広報紙以外にも、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、LINEなどさまざまな広報媒体を活用することで、若年層を含めた幅広い世代に向けた情報発信を図る。	継続
土門拳文化賞顕彰事業(再掲)	文化政策課	土門拳が生涯を通じ追求したドキュメント性、メッセージ性の高い組写真の公募展を通じ、故人の偉大な功績を記念するとともに土門拳記念館の魅力を全国に向け発信した。	○全国各地から106人、116点の応募があり、選考の結果、土門拳文化賞(1名)と同奨励賞(3名)を授与した。	継続
文化芸術推進事業(再掲)	文化政策課	酒田市文化芸術推進プロジェクト会議が企画運営し、市内に質の高い文化芸術にふれる機会の提供を行う。	○国内アーティストによる小学校、特別支援学校へのアウトリーチ(実施40回延べ956人参加)、地域ワンコインコンサート(実施4回593人入場)、リサイタル(実施4回1,047人入場)を行った。 ○他に障がい者アート展(716人入場)、未就学児を対象にしたアートスタート事業(実施2回延べ22人参加)、市内小学生を対象にしたミュージカル鑑賞教室(実施2回1,302人参加)などを実施した。 ●普段文化芸術に触れる機会の少ない方々へより事業を届ける工夫や組み立て(手法・連携先等)について随時検討していく必要がある。	継続
文化活動支援事業(再掲)	文化政策課	市民芸術祭:市内各所で舞台公演・作品展示等を行う市民芸術祭を開催した(R4年度参加団体数:23団体1個人 入場者数:10,284人)本間美術館:貴重な文化財や美術品を多数所蔵している本間美術館の運営状況の安定化と本市の観光の拠点でもある当該施設の維持管理を支援した。	○市民芸術祭:酒田市芸術文化協会に所属する各団体が作品の展示やステージ発表等の文化芸術活動に取り組むことができた。この公演を機会に普段は個々に活動している各団体の交流を行うことができた。 ○本間美術館:企画展のほか学芸員によるトークイベント、広報活動、美術品収集保存、施設整備等実施。小中学生の入館無料や重要文化財等の鑑賞する機会の提供を行った。 ●市民芸術祭:文化芸術活動の裾野が市民全体に広がるようにすることが課題 ●本間美術館:運営の安定化が課題	継続
土門拳記念館管理事業(再掲)	文化政策課	土門拳記念館の管理運営を指定管理者である(公財)さかた文化財団に委託するとともに、写真作品保護のために必要な保存用作品プリントの制作を行った。	○企画展(5回)やトークイベント・親子ワークショップ・ミュージアムコンサート等を開催した。また、土門拳の作品展示について質の高い鑑賞機会の提供に努めた。(R4年度入館者数:19,091人) ●施設が老朽化し修繕が頻繁していることや劣化していく作品(ネガ含)の保護と保管が課題となっている。	継続

# 令和4年度文化芸術推進計画関連事業(文化芸術推進プロジェクト会議)

## 1 芸術家・地域ふれあい事業

地方で暮らしていても質の高い一流の芸術にふれる機会を創出するため、国内を代表するアーティストが本市に一定期間滞在し、市内すべての小学校でのクラスコンサートや、地域の文化施設でのミニコンサート、希望ホールでのワークショップと公演を行いました。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ①文化芸術活動を行う環境の整備                   | <input checked="" type="checkbox"/> ⑪文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ②誰もが文化芸術に親しむことが出来る環境整備 | <input checked="" type="checkbox"/> ⑫多様な分野との連携及びネットワークづくり    |
| <input checked="" type="checkbox"/> ③学校教育における文化芸術活動の充実     | <input type="checkbox"/> ⑬文化財等の地域資源の活用                       |
| <input checked="" type="checkbox"/> ④将来の文化芸術の担い手の育成        | <input type="checkbox"/> ⑭酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出                |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑤文化芸術活動を支える人材の育成       | <input checked="" type="checkbox"/> ⑮文化施設の活用                 |
| <input type="checkbox"/> ⑥市民との協働・共創による事業展開                 | <input type="checkbox"/> ⑯伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信              |
| <input type="checkbox"/> ⑦地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり        | <input type="checkbox"/> ⑰観光との連携                             |
| <input type="checkbox"/> ⑧文化芸術による国際交流                      | <input type="checkbox"/> ⑱産業との連携                             |
| <input type="checkbox"/> ⑨専門性の高い文化の仕掛け人の配置                 | <input type="checkbox"/> ⑲組織体制の強化                            |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑩文化芸術による社会包摂           | <input type="checkbox"/> ⑳市民の視点にたった情報発信・広報戦略                 |

### (1) アウトリーチ

【資料1-3】

#### ① 学校派遣型事業

家庭環境や地域環境に左右されずに、小学校を卒業するまでに必ず一度は一流の芸術にふれる機会を創出することを目的に、普段の授業で児童が使用する音楽室を会場にクラスコンサートや体育館でのダンスワークショップを実施しました。学校でのクラスコンサートやワークショップを体験した子どもたちが、希望ホールのコンサートに家族を連れて訪れ、初めて希望ホールに来たという親が多くいるなど、アウトリーチがホール事業につながる取り組みとなりました。

また、特別支援学校へのダンスワークショップでは、アーティストが障がいの個性に合わせてプログラムを組み立て、表情豊かに伸び伸びと身体表現をする児童・生徒の姿が見られました。

アーティスト(楽器等)	年月日	学校名	学年	人数	備考
高橋 多佳子(ピアノ)	令和4年 6月 7日(火)	富士見小	5年	59人	
	令和4年 6月 8日(水)	泉小	5年	46人	
	令和4年 6月 9日(木)	若浜小	5年	46人	
	令和4年 6月10日(金)	西荒瀬小	5年	18人	
新倉 瞳(チェロ) & 佐藤 芳明(アコーディオン)	令和4年 7月 4日(月)	宮野浦小	4年	61人	
	令和4年 7月 5日(火)	平田小	5年	29人	
		琢成小	5年	27人	
	令和4年 7月 6日(水)	一條小	5・6年	21人	
		松原小	5年	78人	
田中靖人(サクソ) &	令和4年 7月 7日(木)				
	令和4年 7月 8日(金)				
田中靖人(サクソ) &	令和4年11月 7日(月)	鳥海小	5年	19人	
	令和4年11月 8日(火)	浜中小	5年	4人	



新居 由佳梨 (ピアノ)		十坂小	5年	36人	
	令和4年11月 9日(水)	浜田小	4年	35人	
		八幡小	5年	20人	
	令和4年11月10日(木)	亀ヶ崎小	5年	55人	
梅津 碧 (ソプラノ)	令和4年11月14日(月)	南平田小	5年	36人	
	令和4年11月15日(火)	新堀小	5年	6人	
	令和4年11月16日(水)	松陵小	5年	51人	
	令和4年11月17日(木)	松山小	5年	26人	
		広野小	5年	10人	
令和4年11月18日(金)	黒森小	5・6年	12人		
セレノグラフィカ (ダンス)	令和4年 9月30日(金)	特別支援		35人	
田村一行(舞踏・ダンス)	令和4年12月12日(月)	浜田小	6年	39人	
	令和4年12月13日(火)	平田小	5年	29人	
		松山小	3・4年	25人	
	令和4年12月14日(水)	新堀小	3・4年	21人	
		八幡小	6年	28人	
令和4年12月15日(木)	亀ヶ崎小	6年	84人		
合計(延べ数)		28校		956人	

## ② 地域ワンコインコンサート ※入場料500円(25歳以下無料)

旧町村部などの郊外から中心市街地の希望ホールに足を運び難い方など、日頃芸術にふれる機会が少ない市民が、気軽に芸術鑑賞ができる機会を創出するとともに、地域の文化施設の可能性を見出し、施設や地域活動の活性化を目的として、八幡、松山、平田地区などの文化施設や市内のコミュニティセンターなどでミニコンサートを行いました。通常のコンサートより短い45分でワンコイン(500円)という気軽さと、就学前の子どもも入場可とすることで、子育て世代や脚の不自由な高齢者など、希望ホールのコンサートでは見られない層が多く来場しました。

開催日	アーティスト	場所	参加者数
令和4年6月11日(土)	高橋 多佳子(ピアノ)	八幡タウンセンター	189人
令和4年7月9日(土)	新倉 瞳(チェロ) & 佐藤 芳明(アコーディオン)	松山城址館	148人
令和4年11月12日(土)	田中靖人(サクソ) & 新居 由佳梨(ピアノ)	平田タウンセンター	178人
令和4年11月19日(土)	梅津 碧(ソプラノ)	南遊佐コミュニティセンター	78人

## (2) インリーチ (劇場体験型事業)

### ① アナリーゼワークショップ ※入場料500円(25歳以下、リサイクルチケット購入者は無料)

公演で演奏されるプログラムについて、楽曲構成の分析、作曲家の想い、当時の時代背景などを、アーティストが演奏を交えながら、楽しく分かりやすく解説しました。

クラスコンサートを体験した小学生や、楽器を習っている中高生、アーティストのファン、など幅広い層のお客様が訪れました。

開催日	アーティスト	総入場者数	25歳以下		
			当日券	コンサートチケット提示者	
令和4年8月4日(木)	高橋 多佳子(ピアノ)	54人	13人	36人	5人
令和4年7月7日(木)	新倉 瞳(チェロ)& 佐藤 芳明(アコーディオン)	25人	13人	10人	2人
令和4年11月11日(金)	田中靖人(サクソ) & 新居 由佳梨(ピアノ)	19人	7人	7人	5人
令和4年11月18日(金)	梅津 碧(ソプラノ)	20人	20人	0人	0人
合計		118人	53人	53人	12人

## ② 舞踏ワークショップ

世界的舞踏カンパニーの舞踏家によるワークショップを通じて、身体表現の可能性を知り、舞踏の魅力を感じました。アーティストのファンなど、市外・県外からの参加者もいました。

内容	開催日	アーティスト	参加者数
舞踏ワークショップ	令和4年10月28日(金)	田村一行 (舞踏家・振付家)	15人
市民参加舞踏公演 オーデションワークショップ	令和4年10月29日(土)		10人

## ③ 演劇ワークショップ

公共ホールの文化的な芸術活動のための環境づくりと参加者同士の交流を創出し地域活動の活性化を目的として、庄内地域高等学校演劇部、市・公共ホール職員、地域の市民演劇団体を対象に、プロの演出家による演劇の手法を使ったワークショップを実施しました。

開催日	アーティスト	対象	参加者数	内容
8月16日(火)	田上豊氏 (劇作家・演出家 ・田上パル主宰)	高等学校演劇部	23人	プロの演出家、他校演劇部生徒、ホールスタッフとの新たな交流の創出、新たな活動のきっかけ作りを目的として、庄内地域(酒田市・鶴岡市他3町)で活動する3校の高校演劇部員を対象に、2日間計8時間のプログラムでワークショップを実施。
8月17日(水)		高等学校演劇部	19人	
8月18日(木)		市職員・関係団体 職員	21人	文化芸術事業に係る市職員間、関係団体間の連携体制づくりのきっかけとなることを目指し、3時間のプログラムでワークショップを実施。市役所内13課、3団体から参加。

8月18日(木)		演劇団体	16人	庄内地域で活動する演劇団体を対象として、相互間の交流、ホールスタッフとの交流、ホールでの発表の提案、今後の演劇事業に向けてのネットワークづくりのきっかけとなることを目的としたワークショップを実施。6団体から、10代～60代までの参加があった。
8月19日(金)		演劇団体		

### (3) 公演事業

#### ① リサイタルシリーズ ※S席:2,500円(25歳以下1,500円) A席:2,000円(25歳以下1,000円)

小学校でのクラスコンサートや、地域の文化施設でミニコンサートなどを実施したアーティストが、再度本市を訪れ公演を行いました。クラスコンサートを体験した子ども招待することにより、子ども達が希望ホールに来場する機会を創出するとともに、一流の芸術に触れる機会を創出しました。

#### ② 舞踏公演(市民参加公演) ※全席1,000円(25歳以下500円)

公募で集まった市民と、世界的舞踏カンパニー「大駱駝艦」のメンバーで舞踏家の田村一行氏、大駱駝艦メンバーで作品創作を行い、上演しました。地域の伝承を作品のテーマに、酒田舞娘にも出演いただき、庄内地域の人と暮らし、信仰の世界を創りました。観客の中には、市外・県外(東京、愛知、宮城、遠くは兵庫県)からお越しの方もいらっしゃいました。

国内を代表する舞踏家との作品創作を通じて、庄内の魅力を知り、参加者同士の新しい出会いが生まれるなど、参加者にとっても貴重な経験となりました。

開催日	アーティスト	総入場者数 /販売席数	入場者数			
			一般	25歳以下	招待券 (協賛企業等)	アウトリーチ 参加児童
令和4年9月3日(土)	高橋 多佳子 (ピアノ)	429人/ 824席	337人	70人	14人	8人
令和4年9月17日(土)	新倉 瞳(チェロ)& 佐藤 芳明(アコーディオン)	233人/ 824席	179人	3人	43人	8人
令和4年12月18日(日)	田村一行(舞踏)	155人/ 198席	136人	10人	1人	8人
令和4年1月28日(土)	梅津 碧(ソプラノ)	162人/ 350席	107人	4人	46人	5人
令和5年2月18日(土)	田中靖人(サクソ) & 新居 由佳梨(ピアノ)	223人/ 400席	101人	38人	83人	1人
合計		1,202人/ 2,596席	860人	125人	187人	30人

## 2 人材育成事業

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> ①文化芸術活動を行う環境の整備              | <input type="checkbox"/> ⑪文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化 |
| <input type="checkbox"/> ②誰もが文化芸術に親しむことが出来る環境整備       | <input type="checkbox"/> ⑫多様な分野との連携及びネットワークづくり    |
| <input type="checkbox"/> ③学校教育における文化芸術活動の充実           | <input type="checkbox"/> ⑬文化財等の地域資源の活用            |
| <input type="checkbox"/> ④将来の文化芸術の担い手の育成              | <input type="checkbox"/> ⑭酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出     |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑤文化芸術活動を支える人材の育成  | <input type="checkbox"/> ⑮文化施設の活用                 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑥市民との協働・共創による事業展開 | <input type="checkbox"/> ⑯伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信   |
| <input type="checkbox"/> ⑦地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり   | <input type="checkbox"/> ⑰観光との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑧文化芸術による国際交流                 | <input type="checkbox"/> ⑱産業との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑨専門性の高い文化の仕掛け人の配置            | <input checked="" type="checkbox"/> ⑲組織体制の強化      |
| <input type="checkbox"/> ⑩文化芸術による社会包摂                 | <input type="checkbox"/> ⑳市民の視点にたった情報発信・広報戦略      |

### (1) レセプションist育成事業

希望ホール職員や面接採用された市民を対象として、希望ホールでの公演の際に受付や案内を行う「レセプションist」の育成を図りました。希望ホール職員と市民と一緒に事業に関わることで、地域の芸術活動を支える人材の育成を行いました。

講師：サントリーパブリシティサービス（株）

開催日	内容	場所	参加者数
令和4年8月12日(金) ～8月13日(土)	新人研修	希望ホール	14人
令和4年9月3日(土)	実技研修 (高橋多佳子 リサイタル)	希望ホール	14人
令和4年9月12日(金) ～9月13日(土)	フォローアップ研修 (小林愛実 リサイタル)	希望ホール	14人

### (2) 研修事業（さかた・アートアカデミー）※受講生24名(市職員、公共施設職員、市民等)

文化施設や公共施設に関わる方を対象に、現代社会における公共ホールや美術館の役割について、アートの現場と地域社会との関わりを考える全6回の講座を希望ホールで開催しました。また一般市民からも公募し参加者を募ることで、参加者同士の新たな交流や出会いを創出し、地域活動の活性化も目的としました。

アーティスト、プロデューサー、公共施設職員、一般市民等、各分野から講師やパネラーを招き、座学だけでなくワークショップなども交えて、参加者同士の様々な交流を創出し、将来の地域における文化芸術活動を支える人材の育成を図りました。

開催日	題名	講師
8月9日(火)	芸術とまちと ～芸術文化は、まちや教育とどう関わっているのか	平田 オリザ 氏 (劇作家、演出家)
9月20日(火)	公共文化施設の役割 ～教育普及の取り組みから学ぶ	会田 大也 氏 (山口情報芸術センター 学芸普及課長)
10月1日(土)	公共文化施設とわたし ～体験から学ぶ	セレノグラフィカ (ダンスカンパニー/ 隅地茉歩 氏 阿比留修一 氏)
		黒岩 宏美 氏 (ブルーベリーガーデン黒岩経営)
10月12日(水)	公共文化施設の役割 ～アウトリーチの取り組み	小澤 櫻作 氏 (上田市文化芸術センタープロデューサー)

10月30日(日)	公共文化施設の役割 ～情報発信の在り方と取り組みから学ぶ	森 隆一郎 氏 (合同会社渚と代表)
11月20日(日)	公共文化施設とわたし ～体験から学ぶ2	南部 充央 氏 (（一社）日本障害者舞台芸術共同機構 代表理事)
		古本 幸 氏 (若年性パーキンソン病当事者、イラストレーター)

### (3) ピアノ公開レッスン

ショパン国際ピアノコンクール入賞歴を持つ高橋多佳子氏を講師に迎え、ピアノ公開レッスンを行いました。間近で直接レッスンを受け、アーティストの魅力、迫力にふれることで、豊かな感性、創造性を育むことはもちろん、一流の演奏家によるレッスンを体験することにより、将来の地域の芸術家の人材育成を図りました。本事業に参加した受講生が、後に全国コンクールで入賞するなどの成果がありました。

内容	開催日	参加者数
公開レッスン	令和4年8月5日(金)	6人
演奏発表	令和4年8月7日(日)	

## 3 アートスタート事業

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ①文化芸術活動を行う環境の整備                   | <input checked="" type="checkbox"/> ①文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ②誰もが文化芸術に親しむことが出来る環境整備 | <input type="checkbox"/> ②多様な分野との連携及びネットワークづくり               |
| <input type="checkbox"/> ③学校教育における文化芸術活動の充実                | <input type="checkbox"/> ③文化財等の地域資源の活用                       |
| <input type="checkbox"/> ④将来の文化芸術の担い手の育成                   | <input type="checkbox"/> ④酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出                |
| <input type="checkbox"/> ⑤文化芸術活動を支える人材の育成                  | <input type="checkbox"/> ⑤文化施設の活用                            |
| <input type="checkbox"/> ⑥市民との協働・共創による事業展開                 | <input type="checkbox"/> ⑥伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信              |
| <input type="checkbox"/> ⑦地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり        | <input type="checkbox"/> ⑦観光との連携                             |
| <input type="checkbox"/> ⑧文化芸術による国際交流                      | <input type="checkbox"/> ⑧産業との連携                             |
| <input type="checkbox"/> ⑨専門性の高い文化の仕掛け人の配置                 | <input type="checkbox"/> ⑨組織体制の強化                            |
| <input type="checkbox"/> ⑩文化芸術による社会包摂                      | <input type="checkbox"/> ⑩市民の視点にたった情報発信・広報戦略                 |

未就学児を対象に、リズム、絵本の読み聞かせや絵画・造形などの体験を通して、幼い時期から「初めての芸術」にふれる機会を創出しました。

開催日	内容	場所	対象	参加者数
令和4年10月2日(日)	おんがくとえほんの おへや (講師:鍋谷志麻、 佐藤真樹)	希望ホール	3～6歳の子どもと その保護者	親子6組 計12人
令和4年10月5日(水)			0～2歳の子どもと その保護者	親子5組 計10人

## 4 いいいろいろ展

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ①文化芸術活動を行う環境の整備                   | <input type="checkbox"/> ①文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ②誰もが文化芸術に親しむことが出来る環境整備 | <input type="checkbox"/> ②多様な分野との連携及びネットワークづくり    |
| <input type="checkbox"/> ③学校教育における文化芸術活動の充実                | <input type="checkbox"/> ③文化財等の地域資源の活用            |
| <input type="checkbox"/> ④将来の文化芸術の担い手の育成                   | <input type="checkbox"/> ④酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出     |
| <input type="checkbox"/> ⑤文化芸術活動を支える人材の育成                  | <input checked="" type="checkbox"/> ⑤文化施設の活用      |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑥市民との協働・共創による事業展開      | <input type="checkbox"/> ⑥伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信   |
| <input type="checkbox"/> ⑦地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり        | <input type="checkbox"/> ⑦観光との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑧文化芸術による国際交流                      | <input type="checkbox"/> ⑧産業との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑨専門性の高い文化の仕掛け人の配置                 | <input type="checkbox"/> ⑨組織体制の強化                 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑩文化芸術による社会包摂           | <input type="checkbox"/> ⑩市民の視点にたった情報発信・広報戦略      |

障がいのある方々の作品制作に対する支援及び発表の場を提供するとともに、市民に対して多様なアートの魅力を発信する機会を創出するため、障がいのある方が制作した作品の展示会を開催しました。

出展団体：医療法人山容会 山容病院、障がい者サポートセンターあらた、NPO 法人 酒田市障がい者福祉会、NPO 法人みらいず、共同生活事業所 仲町ホーム、和光園共同生活事業所なごみ、和光園共同生活事業所 ふきのとう、就労継続支援B型しろくま、障がい者支援施設光風園、障がい者支援施設和光園、庄内障害者就業・生活支援センターサポートセンター かでの、生活介護センターふれあい、多機能型事業所 o h a n a、多機能型事業所くじら、多機能型事業所ふれんず、放課後等デイサービス ならはし、山形県立酒田特別支援学校

出展作品数:155作品

開催期間	内容	場所	来場者数
令和4年9月22日(木) ～9月29日(木)	いろいろな展	出羽遊心館	716人 うち学生51人

## 5 鑑賞事業

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ①文化芸術活動を行う環境の整備                   | <input type="checkbox"/> ⑪文化芸術に関する施策と生涯学習との連携及び強化 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ②誰もが文化芸術に親しむことが出来る環境整備 | <input type="checkbox"/> ⑫多様な分野との連携及びネットワークづくり    |
| <input type="checkbox"/> ③学校教育における文化芸術活動の充実                | <input type="checkbox"/> ⑬文化財等の地域資源の活用            |
| <input type="checkbox"/> ④将来の文化芸術の担い手の育成                   | <input type="checkbox"/> ⑭酒田らしいまちの景観の保全と魅力の創出     |
| <input type="checkbox"/> ⑤文化芸術活動を支える人材の育成                  | <input checked="" type="checkbox"/> ⑮文化施設の活用      |
| <input type="checkbox"/> ⑥市民との協働・共創による事業展開                 | <input type="checkbox"/> ⑯伝統的な食文化の継承と創造的な食文化の発信   |
| <input type="checkbox"/> ⑦地域コミュニティとの施策連携による文化的環境づくり        | <input type="checkbox"/> ⑰観光との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑧文化芸術による国際交流                      | <input type="checkbox"/> ⑱産業との連携                  |
| <input type="checkbox"/> ⑨専門性の高い文化の仕掛け人の配置                 | <input type="checkbox"/> ⑲組織体制の強化                 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ⑩文化芸術による社会包摂           | <input type="checkbox"/> ⑳市民の視点にたった情報発信・広報戦略      |

### (1) 市原多朗マスターコース 公開レッスン

本市の名誉市民であるテノール歌手 市原多朗氏による公開レッスン を開催しました。

開催日	内容	場所	来場者数
令和4年6月23日(木)	市原多朗マスターコース	希望ホール	42人
令和4年6月24日(金)	公開レッスン		21人

■指導者:市原多朗

■ピアノ伴奏:近藤広志

■コンサート出演者:金城理沙子(ソプラノ)、喜納響(テノール)、工藤和真(テノール)、坂東達也(テノール)、ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)

### (2) 市原多朗マスターコース

本市の名誉市民であり日本を代表するオペラ歌手である市原多朗氏が指導する、若手声楽家5名によるリサイタルを開催しました。地域の皆様から、新たな視点でオペラの魅力や可能性に広くふれていただく機会を創出することを目的として、平成30年度より3か年計画の事業として実施してきました。令和2年度、3年度の開催は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を見送ったため、今年度はその集大成としてリサイタルを開

催しました。

開催日	内容	場所	来場者数
令和4年6月25日(土)	市原多朗マスターコース ～明日への希望コンサート～	希望ホール	271人

■指導者:市原多朗

■ピアノ伴奏:近藤広志

■コンサート出演者:金城理沙子(ソプラノ)、喜納響(テノール)、工藤和真(テノール)、坂東達也(テノール)、ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン)

### (3) ニッセイ名作シリーズ2022

#### NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」

公益財団法人ニッセイ文化振興財団「日生劇場」の主催により、これからの社会を支える児童・青少年の「豊かな情操」や「多様な価値観」を育むために、多彩なジャンルの優れた舞台芸術にふれる機会を提供しました。

対象：市内全小学3・4年生

開催日	内容	場所	来場者数
令和4年9月27日(火) (①10:00～ ②14:00～)	NHK みんなのうたミュージカル 「リトル・ゾンビガール」	希望ホール	①749人②553人 計1,302人

NHKみんなのうたミュージカル「リトル・ゾンビガール」

人里離れた森で暮らすゾンビの女の子・ノノと街で暮らす人間の男の子・ショウの小さな友情の物語。1961年の放送開始からおよそ1,500曲以上の名曲を送り出し、広く人々に親しまれてきたNHK「みんなのうた」の歴代の名曲を全編に散りばめた子どもから大人まで楽しめる新作オリジナル・ミュージカルです。

【対象】小学生

【脚本】徳野有美

【作曲・音楽監督】八幡茂

【演出】鈴木ひがし

【出演】高橋ひかる・熊谷彩春(ダブルキャスト)、

石井杏奈・伊藤理々杏(乃木坂46)(ダブルキャスト)、

大和悠河、エハラマサヒロ、石田佳名子、コング桑田 ほか



### (4) 共催公演

文化芸術推進プロジェクト会議が、希望ホールで開催されるイベントと共催し、広報・事業の協力を行うことにより、施設利用の推進と、多彩なジャンルの鑑賞機会を提供しました。

開催日	アーティスト	総入場者数
令和4年9月14日(水)	小林愛実ピアノリサイタル	741人
令和4年9月17日(土)	TOKYOGROOVIN'HIGH!	680人

	(三遊亭小遊三 春風亭昇太 落語&JAZZ LIVE)	
令和4年9月28日(水)	映画「アイ・アム・まきもと」凱旋特別上映会	1,077人
令和4年11月19日(土)	白崎映美還暦大感謝祭 MOKKEDANO!!	1,160人
合計		3,658人

## 6 参加者感想

アウトリーチに参加した児童や先生からいただいた感想です。

アーティスト (楽器等)	学年	感想
高橋 多佳子 (ピアノ)	5年	・音楽があまり好きじゃなかったけど、今日音楽を聞いて音楽に感情がこもってるみたいで心がワクワクして、前より音楽が好きになりました。
	先生	・普段、消極的な児童が、自ら挙手して自分の言葉で感想を述べる姿に感動しました。
新倉 瞳(チェロ) & 佐藤 芳明 (アコーディオン)	5年	・とても楽しかった。もっと聴いていたかったです ・アコーディオンの演奏を初めて聴きました。チェロとアコーディオンの音色がとても幻想的でした」
	先生	・お二人の演奏が素晴らしいのはもちろんですが、子どもたちがこのクラスコンサートを心から楽しみ、一生懸命お二人のお話と演奏を聴いている姿にとっても感動しました
田中靖人 (サクソ) & 新居 由佳梨 (ピアノ)	5年	・演奏した音楽を家に帰ってお母さんのスマートフォンで調べました。機会があればコンサートに行きたいです。
	先生	・現在、吹奏楽を指導できる先生がいないため、児童が楽器にふれる(見る)機会も減っています。今日の体験は新鮮だった。
梅津 碧 (ソプラノ)	5年	・なぜオペラ歌手が、あの歌い方をするのかを知ることができて良かったです
	先生	・自分たちが普段使用している音楽室で、一流の演奏を聴くという、特別な体験を児童にとどけていただき感謝しています。 ・発達障害のある児童が、自分の言葉で感想を述べることに、大変驚きました。
セレノグラフィカ (ダンス)	先生	・普段の生活・授業では見ることがない、積極的で自由な生徒の一面をダンスによって知ることができた。 ・経験豊富な講師陣だからこそ、生徒たちの表情の豊かさや感情の変化を引き出すことができるのだと思う。今後もこういう取り組みを継続してほしい。」
田村一行 (舞踏家)	4年	・ダンスを見て、最初は難しそうでしたが練習していくと上手に踊れました。お家でお父さんとお母さんにも教えたいと思



		<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・田村さんから教えていただいた時間を忘れずに、これからも宝物にしていきたいです。</li></ul>
--	--	--

**(1) 酒田市文化芸術推進計画改定について**

**① 評価指標の現状と令和 9 年度目標値(案)**

## 評価指標の現状と目標値(案)

基本目標	評価指標 (計画P32)	実績					目標値	
		H29年度 (計画策定時)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度(計画策定時)	R9年度 (案)
市民文化政策 (ひとづくり) 自由で多様性を認める心豊かな 市民生活の実現	1.文化芸術活動※1のしやすいまちだと答える市民の割合【課題1】	50.3%	50.9%	35.0%	36.9%	34.0%	60%	<b>60%</b>
	2.文化芸術活動に参加した市民の割合【課題1】	27.7%	29.3%	16.2%	26.9%	26.9%	33%	<b>33%</b>
	3.文化芸術活動の満足度【課題1】	42.1%	36.2%	25.2%	28.8%	21.9%	50%	<b>50%</b>
	4.文化芸術活動を鑑賞した市民の割合【課題2】	36.4%	43.8%	28.8%	28.8%	41.0%	43%	<b>43%</b>
	5.子どもたちの文化芸術にふれる機会に対する満足度【課題3、6】	31.2%	29.3%	20.7%	20.2%	18.2%	37%	<b>37%</b>
都市文化政策 (まちづくり) 誇りをもてる酒田らしさの創造	6.文化資源※2について誇りをもっている市民の割合【課題4】	66.3%	58.4%	53.1%	53.7%	48.1%	79%	<b>79%</b>
	7.多様な分野との連携事業数【課題5】	教育関係1 観光関係1 商工関係1	福祉関係2 観光関係1	福祉関係1 教育関係1 観光関係1	福祉関係1 教育関係1 観光関係1	福祉関係1 観光関係1	他分野との連携 10事業	<b>他分野との連携 10事業</b>
	8.文化施設※3に行ったことのある市民の割合【課題4】	市内6施設平均 81.7%	市内4施設平均 62.2%	市内4施設平均 58.3%	市内4施設平均 67.1%	市内5施設平均 66.3%	90%	<b>90%</b>

※1.文化芸術活動：ホールでのコンサート、美術館での鑑賞、講演会、文化祭、ワークショップ、伝統芸能等に参加して活動すること。  
 ※2.文化資源とは酒田市美術館、希望ホール、本間美術館、土門拳記念館、総合文化センターや文学、音楽、舞踏、伝統芸能をはじめとする文化芸術活動に関係するもの。

※3.文化施設とは市内4施設(土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市民会館)、5施設(+文化センター)、6施設(+公民館)  
 注) 計画策定時(平成29年度)の数値については、「酒田市芸術文化振興計画(仮称)策定に伴うアンケート」(平成29年7月実施)の結果に基づくものであり、令和元年度から令和4年度の数値については、各年度に実施した市民アンケートの結果に基づくもの。

### 【令和9年度目標値の設定について】

・計画時に設定した令和4年度の目標値を下降修正せず令和9年度の目標値とする。

## ◆基本目標 評価指標の現状

### 【基本目標】 市民文化政策(ひとづくり)検証【H29～R4 年度】

#### 「自由で多様性を認める心豊かな市民生活の実現」 評価指標 1～5

##### 【検証】

- ・評価指標 5 項目中 1 項目を除き計画策定時よりも評価が減少。
- ・コロナ禍での施設利用及び活動の制限が大きく影響した。
- ・特に「評価指標 3.文化芸術活動の満足度」と「評価指数 5.子どもたちの文化芸術に触れる機会に対する満足度」が半数に減少している。
  - ・「評価指標 3.文化芸術活動の満足度」については、計画推進以前の事業に比べ偏った分野(クラシック)の公演が多かったことなども原因と考えられる。
  - ・「評価指数 5.子どもたちの文化芸術に触れる機会に対する満足度」については、全学校のアウトリーチの実施など確実に文化芸術に触れる機会は増加しているものの、アンケート結果に反映されていない。要因としてアンケート回答者が子育て世代より高齢者が多かったこと、アウトリーチの周知が図られなかったこと、それ以外のインリーチ(ワークショップ等)が少なかったことが要因と考えられる。
  - ・職員の経験値のばらつきや業務量の増加により取り組む時間が不足するなどが重なり、アイデアを実現することが難しく、事業に反映することが出来なかった。
  - ・また、アンケートの質問内容に分かりにくさがあったことも考えられる。

##### 【参考:評価指標詳細】

- ・「評価指標 2.文化芸術活動に参加した市民の割合」は計画策定時(27.7%)近くまで回復(26.9%)し、「評価指標 4.文化芸術活動を鑑賞した市民の割合」(36.4%)についても計画策定時を上回った(41%)。
- ・しかし「評価指標 3.文化芸術活動の満足度」(21.9%)は計画策定時(42.1%)の半分となり、活動はしているが満足度が減少。
- ・あわせて「評価指標 1.文化芸術活動のしやすいまち」と答える市民の割合(50.3%)も減少(34%)している。
- ・「評価指数 5.子どもの文化芸術に触れる機会に対する満足度」については計画策定時(31.2%)から減少(18.2%)している。

## 【主な取り組み】

・条例及び計画の策定後は「社会包摂と育成」を重視した事業に計画的に取り組み、希望ホールの貸館主体による集客中心の鑑賞型事業から、直接市民に文化芸術を届けることとし、出前型や市民参加型の事業を行い、文化施設に足を運ぶ機会が少ない市民に対し積極的に機会の提供を行い参加者からは高い評価を得ている。

街角コンサート(～R元)、若竹ミュージカル(R元)、障がい者アート展(H30～)、アートスタート事業(R元～)、地域ワンコインコンサート (R4～)、介護施設でのコンサート(R元)、保育園、小中学校を対象としたアウトリーチ(計画前～)、スクールプログラム(R3～)

## 【方向性】

- ・学校へのアウトリーチ、スクールプログラム、地域コンサートを継続して行うとともに、高齢者、障がい者など広く文化芸術を届ける取り組みを行う。
- ・新たな取り組みを市民協働のもと行っていくため、令和4年度に答申を受け開始した市民アートコーディネーターの育成を推進し、文化芸術が地域に根差し継続して広がっていくための事業に取り組んでいく。
- ・また、行政による文化芸術活動のみならず民間で行っている文化芸術活動についても掘り起こし、市民が市内全体の文化活動情報を認識できるように取り組んでいく。

# 【基本目標】都市文化政策(まちづくり)検証【H29～R4年度】

## 「誇りのもてる酒田らしさの創造」 評価指標 6～8

### 【全体の検証】

- ・評価指標 3 項目全て計画策定時よりも評価が減少。
- ・「誇りのもてる酒田らしさの創造」に向けて取り組みを進めたが、コロナ禍に入り、施設の利用や文化芸術活動の制限（自粛ムード）があったこと、庁内外との連携が進まなかったこと等により評価指標は計画時よりも減少した。

### 【評価指数 6. 文化資源について誇りを持っている市民の割合】

#### 【検証】

- ・「評価指標 6.文化資源について誇りを持っている市民の割合」(66.3%)については大幅に減少(48.1%)し、市民の半数以下となった。
- ・「文化資源をしらないと答える割合」(12.6%)は計画策定時から年々増加(20.6%)。
- ・コロナ禍により民俗芸能フェスタ、狂言ワークショップの中止、黒森歌舞伎酒田公演の中止(R元～3年)により、民俗芸能活動が市民に見えにくくなったことも要因の一つと考えられる。

#### 【主な取り組み】

民俗芸能フェスタ、狂言ワークショップ(小学生)、黒森歌舞伎公演(酒田公演・海外公演)、山居倉庫国史跡指定、光丘文庫・本間美術館デジタルアーカイブ、旧小幡整備、民俗芸能活動支援

#### 【方向性】

- ・文化資源について情報発信や民俗芸能活動を継続していくための支援を行うとともに、文化施設の取り組みに対しても情報発信を行う。

### 【評価指数 7. 多様な分野との連携事業数】

#### 【検証】

- ・「評価指数 7.多様な分野との連携事業数」(連携数 3)についても減少(連携数 2)している。
- ・観光や産業分野など多様な分野との連携した取り組みが少なかった。原因として文化芸術推進プロジェクト会議での方向性が定まらなかったことにより、文化芸術を視点とした各分野の施策への理解が進まなかったこと、コーディネーター的な役割を担う人材もいなかったことなどが考えられる。

## 【主な取り組み】 ※文化芸術推進プロジェクト会議実施

秋田・酒田文化交流事業、障がい者アート展、若竹ミュージカル、アウトリーチ、美術館・土門拳記念館スクールプログラム

## 【方向性】

・庁内での理解を深め連携を行い、専門性を持つ市民や企業等との多様な連携を進めていくため、市民アートコーディネーターの育成を推進しながらまちづくりを政策的に行う。

## 【評価指数 8.文化施設に行ったことがある市民の割合】

### 【検証】

・「評価指数 8.文化施設に行ったことがある市民の割合」(81.7%)についても大幅に減少(66.3%)し、実際の入館者数もH29年度とR4年度を比べると平均して33%ほど減少している。

・「文化施設に行ったことがある」の回答では、全ての施設で「複数回行ったことがある」割合が多くリピーターが多いと考えられる一方、全ての施設で「行ったことがない」と答える割合が増加している。「行ったことがない」理由で各施設共通して「きっかけがない、」が最も多い理由となっているが、計画策定時と比較しその割合は減少している。

・「行ったことがない」で2番目に多い理由は、土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館では「関心がない」、希望ホールについては「情報が入手できない、希望のものがない」となった。

・また「行ったことがない」で割合は低い「費用がかかる」との回答が全ての施設で増加している。

## 【主な取り組み】

・文化施設に足を運ぶきっかけづくりとして、希望ホールで多様な分野によるアートマルシェを開催し、通常の鑑賞事業以外で幅広い市民が訪れる機会を作った。

・土門拳記念館では市外からの来館者が多い施設であるが、市民からも記念館の素晴らしさを知ってもらおうきっかけづくりとして子ども対象のワークショップやダンス・華道等とコラボしたイベントを実施した。

## 【方向性】

・文化施設に対し興味の喚起を行うため、多様なジャンルの事業の実施や情報発信を行う。

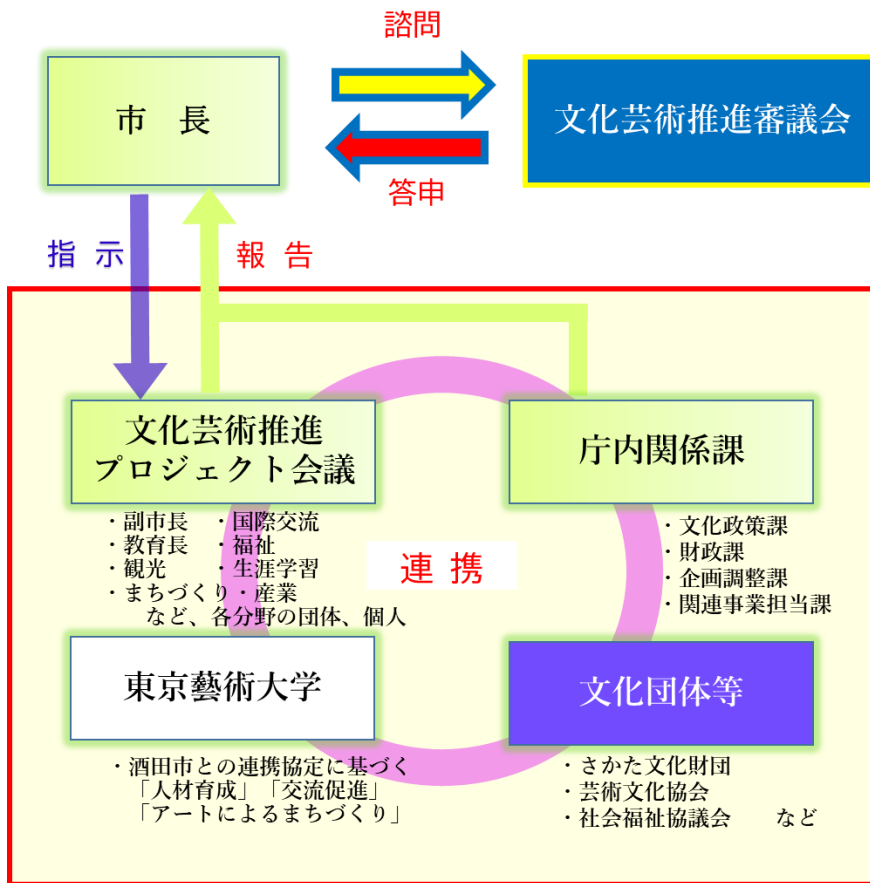
# 推進体制(案)について

【資料3】

## 変更理由

文化政策について、これまで以上に他分野との連携を強化しながら推進する必要があるため、教育委員会から市長部局に移管したことによる推進体制の変更

## 新推進体制



## 旧推進体制

< 推進・評価体制 >

